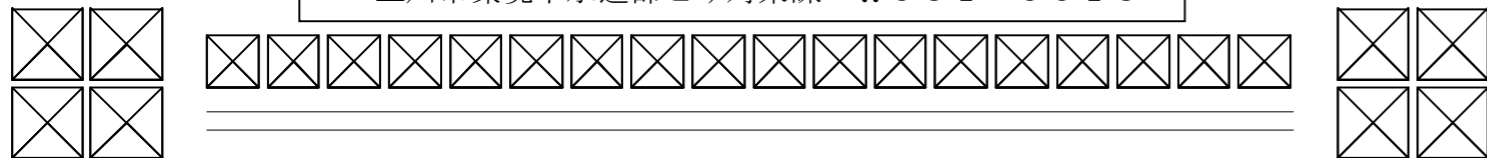


上の図のように、品質検査の結果「A」評価を受けると、同協会からより多くの合理化拠出金が交付されます。ちなみに、立川市は平成21年度が「A」評価だったため、約4,200万円の合理化拠出金が交付されました。しかし、平成22年度の品質検査では「D」評価だったため、平成22~23年度の合理化拠出金は少なくなる予定です。

さらに次回の品質検査でも「D」評価の場合は、民間の施設に処理を委託しなければなりません。その場合の経費は、1tあたり5万円になりますので、年間約2,400tの容器包装プラを処理するためには、現在の約20倍にあたる約1億2千万円の費用が必要になります。

このような最悪の事態を招かないためにも、更なるご協力をお願いします!!

立川市環境下水道部ごみ対策課 ☎531-5518



みんなで減らそう 燃やせるごみ減量50%!

西砂からの風

2010年12月
2011年1月号

容器包装プラが収集できなくなる!?



これは、日本容器包装リサイクル協会による容器包装プラスチック (容器包装プラ) 品質検査の様子です

「D」評価という現実

市は、容器包装プラのリサイクル処理を日本容器包装リサイクル協会に委託しています。同協会では、年に1回、市から引き渡された容器包装プラの品質検査を行っています。今年度の検査結果は、最も低い「D」評価を受けてしまいました。

「D」評価の要因

「D」評価の要因としては、①汚れた容器包装プラや②容器包装プラ以外のものが基準を超えて多く入っていることと③乾電池やライターなどの禁忌品が入っていることです。

容器包装プラの行き場がなくなります

次の品質検査の結果も「D」評価の場合は、同協会への引き渡しができなくなり、立川市の容器包装プラは行き場がなくなってしまいます。

